



学校だより 第1号

木城町立みどりの杜木城学園

4月 椎の苗木



令和6年 4月15日(月)
文責：小嶋 雅史

新任式・始業式

4月8日(月)に新学期がスタートしました。最初に、18名の転入職員を迎えての新任式を行いました。学園生は、新任の教職員のあいさつを一生懸命聞いていました。教職員からの「おはようございます」のあいさつに元気よく返事をする姿に、木城学園があいさつあふれる学校に一步步前進していることがうかがえました。



始業式では3名の学園生の代表が今年度頑張りたいことを発表しました。

4年生代表

個人の目標として、3年生までは、勉強で分からないことやできないことがあったときにはあきらめていたが、4年生では、勉強は苦手だけど最後まであきらめずに頑張りたいと発表してくれました。4年生としては、お互いが助け合えるような学年にしたいということとステージⅠのリーダーになるので、1、2、3年生のお助けマンになれるように、進んでお手伝いができるようにし、あいさつのお手本となれるように普段から元気なあいさつができるように心がけたいと発表しました。



7年生代表

昨年度の修学旅行で、民泊でお世話になった方々との交流を通して、あいさつをすることについての意識が高まり、その後の学校生活でも活かすことができたので7年生でも継続したいと発表してくれました。また、7年生になって、楽しいこととして、部活動のことを挙げ、憧れていた先輩に一步近づける喜びを語ってくれました。そして、7年生からは定期テストがあるので勉強も頑張りたいと発表しました。



9年生代表

昨年度の修学旅行では仲間と協力することを学び、異学年交流では色々な人と関わりそれぞれの考えや意見を知ることを通して、積極的に自分から動くことの大切さを学び、実践できるようになったことを挙げ、今年度は、9年生全員で積極的に動き、協力することで他学年から憧れられるような存在になり、「これぞ、最高学年」と言われるような学年にしたいと発表しました。



7年生制服お披露目

本校は昨年度より義務教育学校になりましたので、小学6年生の卒業式と7年生（中学1年生）の入学式がありません。しかし、7年生から中学校課程が始まり、これまでと違い制服で学校生活を送ることになります。そこで、その節目を祝うために、4月8日（月）の新任式の中で7年生の制服お披露目が行われ、代表が誓いの言葉を発表しました。



入学式

4月12日（金）に第2回入学式が行われ、43名の児童が入学しました。

新入児氏名点呼では、学級担任から名前を呼ばれたら、体育館に響くほどの大きな声で「はい」と元気に返事をする児童が多く、新入生のおかげでこれまで以上に元気のよいあいさつが飛び交う木城学園になりそうだと感じました。



来賓の方々からの心温まるお祝いの言葉もたくさんいただきました。元気のよい返事やあいさつができる人になってほしい、早寝、早起き、朝ごはんといった基本的な生活習慣を身に付けてほしい、友達と仲良くしてほしい、新しい学校生活が楽しみな人もいるけど不安な人もいることを分かって、助け合ってほしいといった願いを話されました。また、4年生と9年生に向けては、ぜひ新入生を助けてあげてほしいとお願いをされました。

9年生の歓迎の言葉では、児童生徒会長が、入学していたことを心待ちにしていたことや不安なことがあるときには、上級生のお兄さんお姉さんに頼ってほしいということを伝えました。そして、4年生全員による学校紹介は、とても分かりやすく、これからの学校生活が楽しく期待がもてそうな内容でした。



このようにたくさんの人に温かく見守られながらの素敵な入学式になりました。

このようにたくさんの人に温かく見守られながらの素敵な入学式になりました。

耕心コーナー 「素晴らしい木城学園に感謝！」

令和六年度がスタートしました。この素晴らしいみどりの杜木城学園で教職員として働くことを幸せに感じ感謝しています。国の「教育課程審議会」から以前出された言葉を念頭に職員一丸となり四百六十七名の学園生たちの明るい未来のために努めていきたいと思っています。

～学校・教師の存在価値を考える～

○学校は子どもたちにとって伸び伸びと過ごせる楽しい場でなければならない。○子どもたちが自分の興味・関心のあることにじっくり取り組めるゆとりがなければならない。○分かりやすい授業が展開され、分からないことが自然に分からないと言え、学習につまずいたり、試行錯誤したりすることが当然のこととして受け入れられる学校でなければならない。○その基盤として、子どもたちの好ましい人間関係や子どもたちと教師との信頼関係が確立し、学級の雰囲気も温かく、子どもたちが安心して自分の力を発揮できるような場でなければならない。○このような教育環境の中で、教科の授業だけでなく、学校のすべての生活を通して、自分がかけがえのない一人の人間として大切にされ、頼りにされていることを実感できるようでなければならない。

さまざまなこと思い出す桜かな（芭蕉）

あつという間に桜も葉桜へとかわりました。これからの一年、時を大切に、しっかりと家庭や地域の方々と連携し努めていきたいと思っています。